

2005年1月18～20日「国連・持続可能な開発のための教育の10年」キックオフとなる「持続可能な未来のための教育(Education for Sustainable Future: ESF)」国際会議(インド・アーメダバード市:インド環境教育センター開催)が開催され、ESD-J国際ネットワークプロジェクトチームからも代表3名が参加しました。詳しい報告はESDレポート第3号10-11ページに掲載しています。また、インド環境教育センターウェブサイト(<http://www.cceindia.org/esf/>)でも詳細(英文)をご覧になることができます。

<「持続可能な未来のための教育」国際会議全体において採択された「アーメダバード宣言」>

アーメダバード宣言

2005年1月20日に、インド、アーメダバードの環境教育センターにおいて開催された「持続可能な未来のための教育会議」で、50以上の国々から参加した800人を超える、持続可能な開発のための教育(ESD)を学習している人々、思考している人々、実践している人々が本宣言を採択した。

本会議は「国連持続可能な開発のための教育の10年」(ESDの10年)における初の国際的な会合であり、我々は心よりESDの10年の幕開きを歓迎する。ESDの10年で最も重視されるのは、持続可能なライフスタイルおよび政策へと人々を動かす、行動のための教育の可能性である。

世界の諸国民が質の高い生活を享受しようというのなら、我々は持続可能な未来に向かって直ちに前進しなければならない。大半の指標が持続可能性からほど遠い数値を示しているにもかかわらず、このような動向を変えるという、とてつもなく大きな仕事に取り組む草の根の活動が、世界中で広がっている。

我々は自らの責任を受け入れ、自らが為し得るあらゆることを共に実行しようと万人に働きかけて、謙虚に、包括的に、豊かな人間性をもってDESDの理念を実現する。種々のネットワーク、パートナーシップ、機関を通して、我々は幅広い参加者を募る。

我々が集うこの都市にマハトマ・ガンディーは暮らし、働いていたので、ここで想起するのは、「生活のための教育、生活を通じた教育、生涯を通じての教育」という彼の言葉である。参画型で生涯にわたる教育という理想に対して我々は責務を負っていることを、この言葉は明示している。

持続可能な開発への鍵は、公平と社会的公正の原則に従った万人のエンパワーメント(能力強化)であり、このようなエンパワーメントへの鍵は行動指向型の教育であると、我々は強く確信している。

教育を伝達のメカニズムと見なすことから、我々は全員が教師であると同時に学習者でもあるという認識へと転換することを、ESDは示唆している。村落や都市、学校や大学、企業のオフィスや工場の組み立てライン、大臣や公務員のオフィスで、ESDを実施しなければならない。現在および未来世代のために環境を保護し、社会的公正を推進し、経済における公平性を向上するには、どのように暮らし働くべきかという問題に、万人が取り組まなければならない。争いを解決し、思いやりのある社会を創出し、平和に暮らすにはどうすべきかを、我々は学ばなければならない。

我々のコミュニティの持続可能なモデルを設計して、それを実現へと進めていくために、ESDにおいては、まず自らのライフスタイルと意欲を省みることから始めなければならない。自らの多様な経験と蓄積された知識を共有し合って、持続可能性に関するビジョンを練り上げ、同時にこのビジョンを次々に実行に移していくことを、我々は誓う。自らの行動を通して、我々はESDの10年のプロセスに実質的な内容を与え、活性化させることになる。

人々の切迫感、責任感、希望、熱意によって、ESDの10年の目的は達成され、アーメダバードを発して前へ進むであろうと、我々は大いに期待している。

<「持続可能な未来のための教育」国際会議、国連開発計画(UNDP)地球環境ファシリティ(GEF)小規模グラント・プログラム(SGP)分科会のインド、パキスタン、スリランカ、ネパール、ブータンのナショナル・コーディネーターらとESD-Jが共同で採択した『ESD-JおよびUNDP GEF SGP：アーメダバード宣言』>

2005年1月20日
インド、アーメダバード

ESD-JおよびUNDP GEF SGP アーメダバード宣言

「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)および国連開発計画(UNDP)地球環境ファシリティ(GEF)小規模グラント・プログラム(SGP)のインド、パキスタン、スリランカ、ネパール、ブータンのナショナル・コーディネーターは、2005年1月19日にアーメダバードの環境教育センターに集い、全ての国にNGOのネットワーク”Hubs to Hubs(ネットワーク拠点からネットワーク拠点へ)”を構築することに合意し、以下を決議した。

「互いの経験から得られるアイデアを学び、共有し、交換し、地域および国家レベルのネットワーク拠点(Hubs)を構築し、持続可能な開発のための教育(ESD)に向けて共に取り組む。ESDに積極的に取り組んでいる各国の非政府組織(NGO)、市民社会組織(CSO)、コミュニティ組織(CBO)、学者、ジャーナリスト、農民、学生、その他の個人を人々が探し出して連絡を取れるようにする」

ここに参加したESD-J、ナショナル・コーディネーター、その他NGO、CSO、CBO、個人は、パートナーたちの世界的なネットワークである”Hubs to Hubs”の構築に合意し、以下を決議した。

「パートナー間で情報交換を促進し、彼らの知識と経験を蓄積する国際的組織を形成するために、協力して取り組む」

ここに参加したESD-J、ナショナル・コーディネーター、その他NGO、CSO、CBO、個人は、以下のことに合意した。

- 全ての国に地域および国レベルのネットワーク拠点を構築し、連携させる。
- 情報の収集および普及の拠点としての機能を持つ。
- 他のNGO、CSO、CBO、個人と共に取り組む。
- 持続可能な開発のための教育を、世界中で共に推進していく。

P S Sodhi India	幸田シャーミン Japan	Fayaaz Baqir Pakistan	大島順子 Japan	中村絵乃 Japan
--------------------	------------------	--------------------------	---------------	---------------

Shireen Samasuriya Sri Lanka	Anjana Giri Bhutan	Vivek Sharma Nepal	中島美穂 Japan
---------------------------------	-----------------------	-----------------------	---------------